

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
1 名張市	対談項目1 「産み育てるにやさしいまち”なばり”」について	(1)少子化対策について ①助産師の確保	名張で、保健師が妊娠した人に聞き取り調査を行ったところ、1人目、2人目が生まれた時、嬉しいと感じた人が86.5%、3人目が生まれた時、嬉しいと感じた人は69%、不安と感じた人が31%だった。予定妊娠かどうかを聞いたところ、1人目、2人目が74%なのに対して、3人目は48%だった。経済的な不安に対して、1人目、2人目は8%しかいないのに対して、3人目は15%が不安と答えた。安心して産み育てるには、産後のケアが非常に重要であり、特に助産師の確保がとても大事。しかし、三重県は助産師の数は全国でも最低で、伊賀では1人しかいない。そこで、県として助産師の確保について、支援をしていただけないか。	平成22年末における三重県の人口10万人当たりの助産師の数は、16人で、全国最下位。全国平均は、23.2人。そこで、平成22年4月から助産師養成所を作り、地道に活動し、平成24年末における人口10万人当たりの助産師の数が19.5人となり、全国45位になり、最下位を脱出した。全国と比べて、まだまだ十分な数字ではないので、これからも助産師の養成や離職の防止等、助産師の確保に取り組んでいきたい。

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
2 名張市	対談項目1 「産み育てるにやさしいまち”なばり”」について	(1)少子化対策について ②予防接種の助成	子どもが、感染症にかからずに成長するためには予防接種が大変重要と考えている。ヒブワクチン、肺炎球菌、子宮頸がんは無償化、風疹も、知事の英断で半額補助していただいた。名張では、ロタウイルスについても半額補助しており、該当の方の半数が受けてもらっている。これを、おたふく、水痘、B型肝炎と進めていきたいと思っている。これらの予防接種に対して、県から1/4補助をいただきたいと思っているが、支援していただけないか。	予防接種の重要性については理解しているが、予防接種は、全国一律に行うものであり、風疹については緊急的対応したが、基礎的自治体の事務である。国でもロタウイルス、おたふく、水痘、B型肝炎について無償化できるかどうかについて研究されており、平成25年度末までに結論を出すことになっている。それを待ってから考えたい。

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
3 名張市	対談項目1 「産み育てるにやさしいまち”なばり”」について	(1)少子化対策について ③多子世帯の経済的負担軽減	<p>名張市では、3人目プロジェクトとして、まず、第3子以降の保育料を無償化したいと思っている。これまでは保育所に3人入所しておれば、3人目が無償ということだったが、現実的に難しいので、きょうだいが小中学生であっても、3人目が保育所にいけば無償にしていきたいと思っている。これは基礎自治体の仕事と考えている。</p> <p>もう一つは医療費の無料化。知事も公約で小学校6年生までは無料化して、市町もついてきてくださいという投げかけで、すべての市町が対応した。それを上乗せして、3人目以降の子供は中学生まで、医療費を無料化していけないかと考えている。これについて、知事の所見を伺いたい。</p>	<p>内閣府の委員をしていて、1人目、2人目、3人目で、どういう課題があるのかを議論した。1人目は女性の働き方の支援が大切、2人目は父親の家事育児への参画、3人目は経済負担が一番大きい。</p> <p>市長がおっしゃられた3人目の経済的負担を軽減するというのは重要な取組だと思う。まず、第3子以降の保育料の無料化について、「同時入所」という条件を外すように国に要望し、国において検討されているところである。県としても、国の答えが出た後に、どうするのかを考えていきたい。</p> <p>次に、医療費の無料化について、私が知事になって、小学校6年生までは無料化し、独自に上乗せしている市町もある。障がいをかかえる方々の問題についても考えないといけないので、基礎自治体の皆さんと議論していきたい。国に対して、現在、46都道府県が小学校に入るまでは医療費助成をやっており、国が社会保障の改革の中で制度化していけば、地方は浮いてきた財源で、3人目を中学生まで無料にするとか、障がいを抱えている人に手厚くするとか、いろんなバリエーションが出てくる。これも、国に要望し、国からの回答待ちとなっている。非常に重要な論点であり、市長と問題意識は同じである。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
4 名張市	対談項目1 「産み育てるにやさしいまち”なばり”」について	(1)少子化対策について ④出生率の高い企業への表彰制度の創設	県は、子育てと就労を両立している企業を表彰されているが、出生率を上げている企業を表彰する制度を創設してはどうか。	「男女がいきいきと働いている企業」知事表彰制度がある。「出生率を上げている」という表彰基準はないが、国に対して総理大臣表彰として創設してはどうかと言っている。国がやらなければ、県でやりたいと思っている。福井県では、「企業子宝率」を調べて、高い企業を表彰しているので、事務方がこの制度を勉強しているところである。
5 名張市	対談項目1 「産み育てるにやさしいまち”なばり”」について	(1)少子化対策について ⑤安心こども基金の延長、	「安心こども基金」について、これまで毎年、補正でつないできたという経緯がある。知事が先頭にたって、新しい基金を創設しようとしていただいている。「安心こども基金」をより充実させて、もっと使い勝手の良いものにしていってはどうか。	「安心こども基金」は、平成20年度末から毎年、ぎりぎりまで国から予算がくるかどうかわからないというなかで、主に保育所の整備に使わせていただいている。三重県でも21年度から使っているが、4年間で定員約2000人分、31カ所の保育所の整備を行った。25年度も285人分の保育所を作っていくこととしている。保育所の整備や保育士の処遇改善にも使わせていただいているので、「安心こども基金」は、国に対して恒久化してほしいと要望している。

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
				<p>2030年までに少子化に歯止めをかけていきたいと考えている。フランスやスウェーデンは20年、30年かかって、少子化に歯止めをかけてきた。今からやらないといけない。晩婚化、晩産化が進んでいる。国が統一的にやったらよい事業と地方が実情にあわせてやった方がよい事業があるが、「安心こども基金」は国家的な課題であるので、財源は国で措置していただき、やり方は地方にまかせていただくことを認めていただくことが大事である。三重県の中でさえ、地域によって差がある。どこでも待機児童対策をすればよいというものではない。地方の実情にあわせた対策をとることが、少子化に歯止めをかける重要な視点となる。市長の提案については、我々も歩調をあわせて、国にも話をしていきたい。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
6 名張市	対談項目1 「産み育てるにやさしいまち”なばり”」について	(1)少子化対策について ⑥県独自基金の創設	子ども・子育ては県民こぞってやっていくものである。県独自の基金を創設し、きめ細やかな事業をしていってはどうか。	今も、「超過課税制度」を導入し、福祉、中小企業、スポーツ、環境に使わせていただいている。福祉基金の残高は約3億円。その中から不妊相談・治療支援などの子育て支援事業等に活用させていただいている。 新たな税を導入するのか、各基金への配分割合を変えていくのかは検討したいが、今年度から「みえ森と緑の県民税」を導入したこともあり、新たな税の導入よりも、今の財源の組み換えなどで、市町の使い勝手の良い基金にできないか制度設計を検討したい。

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
7 名張市	対談項目1 「産み育てるにやさしいまち”なばり”」について	(1)少子化対策について ⑦小児医療救急センターの開設	<p>名張市の10年来の悲願でもあったが、子どものいる家庭で最も心配なのは、子どもが急病になった時に24時間365日叶う病院があるのかということについて、伊賀地区は医療過疎とも言われており、今はそのような病院はない。しかし、関係者の努力で、名張市立病院は小児科医が6名、アルバイトの医師を加えられれば、24時間365日が叶う病院、「小児救急センター」が開設することができる。できることなら、今年中に開設したいと考えているが、経費的に黒字になることはないので、医療過疎の特例として、県でも財政的な支援をしていただけないか。</p> <p>伊賀は特殊なので、サブ医療圏を設けていただいた。これから具体の相談を担当とさせていただきたい。是が非でも今年中に開設していきたいという思いを持っている。</p>	<p>小児科医が6名になったことについて、関係者の医師確保の努力に敬意を表したい。「小児救急センター」の開設にあたっては、現状においても、常勤医師が輪番当番日に勤務した際の手当等について補助をしているが、実際に、開設となった時に、どのような費用の支援が必要なのかを具体的に協議させていただきたい。</p> <p>本当は2次医療圏にひとつというのが、国の小児救急医療拠点病院運営事業の基準で、中勢伊賀保健医療圏では、すでに国立病院機構三重病院が指定を受けているので、そこでいいのではないかという議論になりかねないが、これまでの努力や伊賀地域という特殊性もある。可能なことはしっかりやりたいと思うので、具体的な協議を行いたい。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
8 名張市	対談項目1 「産み育てるにやさしいまち”なばり”」について	(2)生活困窮者への支援について	<p>貧困連鎖を断つということで、名張市では、学習支援と就労支援に取り組みたいと考えている。学習支援については、すべての子どもを高校まで進学してもらおうと、教員OBの協力を得て、施設に伺う等の取組をしていきたいと考えている。県では、一人親家庭を訪問するボランティアを募集されているが、市の制度とよく似ている。「一人親家庭」に縛ることなく、祖父母や施設に育てられている子供もいるので、対象となる家庭を広げてはどうか。</p> <p>就労支援について、名張市では「農業」と「カフェ」をひとつのツールにしてやっている。インターンシップをぜひやっていきたい。市で開拓した市内の企業では数が少ないので、県内全域でインターンシップが受けられるように企業開拓を県としてやっていただきたい。</p>	<p>県では、今年度から「生活保護世帯」への学習支援事業、「一人親家庭」への学習支援事業を実施している。「生活保護世帯」への取組は3市、「一人親家庭」は津市でモデル的に取り組んでいる。</p> <p>また、平成23年度からは児童養護施設の小学生に対して学習支援事業を実施している。来年度に向けて、どのような事業にしていけばいいのかを相談させていただきたい。就労支援についても、いっしょに企業開拓を協力してやっていければと思う。</p> <p>インターンシップや職業訓練的な部分での、企業開拓について、協力させていただきたいと思う。</p>